

日本語ボランティア活動報告

アメリカ:コロラド州立大学
菅野 圭子(京都府京都市)

2017年10月4日から12月15日まで、アメリカのコロラド州フォートコリンズにあるコロラド州立大学(CSU)日本語クラスにて、日本語ボランティア活動を行ってきましたので以下にご報告致します。

ボランティア活動

日本語クラスは1年生から4年生までクラス分けされており、ベーケン先生、コリンズ先生、キム先生の3名が担当されていました。私は1年生、2年生、3年生のクラスにボランティアとして参加し、資料の配布や課題返却の補助、リスニングパートの会話相手を務めるなど、状況に応じた様々な役割を担いました。

アメリカのセメスター開始は8月末なので、私が参加した期間はセメスターの後半にあたります。そのため、日本語導入にあたる1年生のクラスでは、日本語習得に努力をする学生とそうでない学生の差が段々と大きくなり、最終的に日本語習得をあきらめる学生が多くいる現実も目の当たりにする事になりました。大学生であり、さらに自己責任が当たり前のアメリカとはいえ、先生方も習得が難しい日本語を、いかに興味を持ち続けながら習得に導けるかに悩んでおられる姿にはとても心を打たれました。

それにしても、日本語学習の補助をすることで改めて日本語の難しさを再確認しました。日本語には、漢字、かな、おまけにカタカナまであり、数を表す言い方も用途に合わせて様々あります。私自身も授業中に窓は一枚二枚？一個二個？障子は一枚二枚？一本二本？とよく分からなくなり、「一般的なのは何？」と尋ねられても答えられず困るという経験を度々しました。そんな難しい日本語を、2年生、3年生はかなり日常的に使えるようになっていのですから、本当に驚きです。自身の英語習得加減と比較し、もっと努力をしなければと思い直した日々でした。

さて、滞在期間中、授業以外にも二つの日本語関連の行事に参加しました。一つはランゲージキャンプ、もう一つはスピーチコンテストです。ランゲージキャンプは、CSUに留学をしている日本人の学生が、日本語や日本文化をもっと知ってもらおうという目的で行っている行事です。フルーツバスケットや伝言ゲームもあれば、授業さながらのスキット(短いお芝居)まで、日本語を学んでいる学生さん30名程が参加し、楽しく日本語と日本文化を学ばれ、かつ日本人の学生や教員、ボランティアと日本語で会話する催し物でした。一方スピーチコンテストとは、日本語を学ぶ学生が日頃習得した日本語能力を披露する場で、毎年11月に開催されるコロラド・ワイオミング州日本語弁

論大会のことですが、今年度は大学生の部で、初級者(1年生)のスキット1位、2位独占、中級者(2年生、3年生)のスピーチでもそれぞれ1位と優秀な成績を治めました。おめでとう！！



日本語弁論大会終了後、みんなでポーズ！

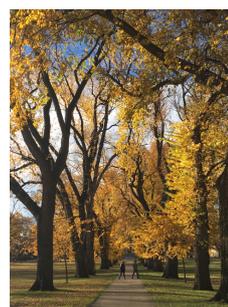
アメリカ生活

私は生まれが富山県なので、山も海も常に生活圏にあり豊かな自然には慣れていると思っていましたが、コロラド州フォートコリンズでの経験は別物で、広大なアメリカを肌で感じる事ができました。その一つが野生動物との共存です。富山にもカモシカや日本サル、ウサギなどがいますが、生活圏ではそれほど見ることはありません。しかしフォートコリンズで

は、リスが毎日家の屋根を駆け回り、帰宅すると出迎えてくれ、戸を開けていようものなら入ってこようとさえするのです。大学構内でも、あちらにもこちらにも…というくらいリスとウサギがいました。慣れるまで、ついつい連日写真に撮ってしまいました。



出迎えてくれたリス



紅葉が美しい CSU キャンパス



ロッキーマウンテン国立公園、キム先生と共に

慣れなかった事の一つに寒暖の差の激しさがあります。滞在開始の10月で

も、最高気温が25度近くになる日の最低気温は10度以下と、1日の中で20度近くの差がありました。これは結局12月になっても変わらず、最高気温が10度近くの最低気温が零下10度、おまけに部屋の中は25度以上…、ずっと何を着たらいいのかあたふたしたものです。

アメリカにおける10月から12月にかけてのイベントといえば、サンクスギビング(感謝祭)ではないでしょうか。元々はネイティブアメリカンへの感謝から始まったイベントですが、大学はホリデーとなり、学生は実家へ帰省し家族と過ごします。私はフォートコリンズで親交を深めたご家族に招待され、昔からのサンクスギビングディナーを堪能させてもらいました。



典型的なサンクスギビングディナー



グルーミング中

また、このご家族が所有されている馬がいるということで、馬のグルーミングや馬との散歩も経験することができました。

ボランティア活動を終えて

2ヶ月という期間はあっという間に終わってしまったと言うのが本音です。途中「ホームシックになっていない？」と尋ねられたのですが、答えは「ぜんぜん」でした。日本語ボランティア活動なので、先生を始め学生とも日本語で話しますので、日本語を懐かしく思う暇はありませんでした。もちろん生活の面では、お店で何を聞かれているのか全く聞き取れない、間違った商品を購入してしまい、買い物に連れて行って下さったコリンズ先生に取り替えてもらうなど数々の失敗はありましたが。

このように、なぜ短期間でスッとアメリカ生活になじみ、ボランティア活動を楽しめたのかについては、これまで活動をしてこられた方々のおかげとしか言いようがありません。これまでの活動があったから、見ず知らずの私にも色々気を配って頂いたのだと感謝しています。また、生活面でも控えめにサポートいただいた(雪が降った日の朝は、必ず私が起きる前にアパートの廊下や階段の除雪をして下さいました)アパートオーナーのエリックさん、本当にありがとうございました。